

## GP 農業の微生物の働き

GP 農法の農業は慣行農法の農業とは基本的に違います。

慣行農法の農業は化学肥料のエネルギーを使います。化学肥料は非常に高いエネルギーを持っています。化学肥料の成分は野菜を育てたあとも土に残ります。

そのエネルギーがマイナスのエネルギーだからです。ですから石灰を入れてマイナスのエネルギーを中和するのです。

そうしないと次の野菜の成育が悪くなるからです。

慣行農業で生産している土は土壤微生物が極端に少なくなります。

化学肥料は土壤微生物の動き、働きを止めてしまうからです。

GP 農法の農業は土壤微生物の働きが主力です。

畑の土壤に漢方の上薬のエネルギーを持ったセラミックスを埋めて、土壤微生物の繁殖を促します。土壤になん十兆の微生物が繁殖します。

その微生物を採取してその微生物を漢方上薬のエネルギーの中で熟成すると微生物の酵素が出来ます。

この微生物の酵素は嫌気性が強いのです。

そしてタンクの底に漢方上薬のエネルギーを持ったセラミックスを入れ、30種類以上の草と米ぬかを合わせて入れて、水と土壤微生物の嫌気性の強い酵素を入れます。2日位で草の発酵が始まります。1日おきに草を攪拌します。

一週間位で強い発酵はおさまります。草は好気性微生物が多いのです。攪拌が終わり、その後二週間位で熟成します。すると草はトロトロになってきます。

草の発酵エキスは3倍に稀釈して、漢方上薬のエネルギーを持ったセラミックスが埋めてある畑に散布します。育てる野菜によって散布する頻度は変わります。